

『方言漢字辞典』重版記念 地名とまちづくりを考える 「第7回方言漢字サミット―社会をつなぐ文字文化―」



実施者：八潮の地名から学ぶ会

社会や地域の課題

長く地域で守られてきた有形・無形の文化遺産について、人々の生業や生活様式の変化に伴い消滅の可能性が高まっています。それは、その地域に暮らす人々の誇りや地域への愛着を育むことができず、ひいては地域コミュニティの衰退を招きます。

課題の本質は、地域文化の重要性を認識する機会に乏しく、その意義を考える機会が少ないことです。

取組概要及び成果

言葉、文字は文化の最たるものであり、方言は地域の歴史・文化の象徴です。テーマに据える「方言漢字」は方言を書き言葉で表す際の努力と工夫の結晶であり、それを考察することは地域の歴史・文化に触れ、地域の魅力の再発見をもたらします。目的は、多くの参加者が集まり「方言漢字」を考察することで、地域文化の意義を理解し、広く世に伝えることにあります。

これまで継続して行っている「方言漢字サミット」では、全国から122名(オンライン参加者32名含)の参加者がありました。「方言漢字書道展」は全国から21作品が集まり、とある大学書道クラブがまとめて出品する例もありました。「方言漢字ウォーキング大会」では参加者10名の内、青森・岩手・千葉県、及び東京都からの参加もありました。

『『塙』再発見プロジェクト』では、本庄市、本庄市NPO法人、及び漢検ミュージアム(京都市)との連携が実現しました。「シリーズ『方言漢字』を考える」では他県自治体との連携事業として、神崎市(佐賀県)、及び菊池市(熊本県)での講演が叶いました。